

1回目 歴史からみる健康

1

精神保健の歴史（近世以降の欧米）

* 1783年 ベンジャミン・ラッシュ(1745~1813)
(アメリカ精神医学の父)

トランキライザー (精神安定剤) の使用を主張

* 1792~1793年 フィリップ・ピネル (1745~1826)
(パリのビゼートル病院院長)

無拘束による心理的治療 (道徳的療法) 試み

2

* 1908年 クリフォード・ピアーズ(1876~1943)
(アメリカ、銀行員、自分の体験談を発表)

- ・『わが魂にあうまで』
- ・精神病の理解や精神病院での治療、施設の充実の必要性と予防を訴える。
- ・精神保健活動の始まり

- ↓
- ①精神病院の改善
 - ②精神障害の早期発見・早期治療

3

精神保健の歴史（日本：明治以前）

* 「きちがい」「たふれ」「狐」と呼ばれ、人に迷惑がなければ問題なし

・古事記・日本書紀・古今物語など

* 「疫病神のたたり」「狐つき」とも呼ばれ、祈祷で治す

* 1072年(平安) 岩倉村 大雲寺 コロニー

* 後三条天皇の第三皇女18歳の時“ものものにつかれた”とし、静養(転地療養)

4

精神保健の歴史（日本：明治以降）

- ・ 1900年(明治33年)
- ・ 「精神病患者監護法」公布 ⇒ 私宅監置(座敷牢)が法的に認知
- ・ 1901年
- ・ 吳 秀三『無拘束の理念』⇒ 精神病患者を人道的に扱うことを主張
- ・ 1902年 精神病患者救済会設立
- ・ 吳夫人が中心に活動
- ・ 1919年「精神病院法」成立 ⇒ 各地に精神病院が設立

5



吳 秀三〔日〕
1865-1932

吳秀三は、ヨーロッパ留学を行い、クレペリンらの元で学んだ後、帰国し東大精神科教授および、東京府立巢鴨病院(後の都立松沢病院)院長に就任。

全国の私宅監置の実際を調査し、報告書(1918年)をまとめ、日本の精神医療の遅れを指摘。「我が国の精神障害者は精神病になった不幸に加えて、惨めな処遇しか受けれない日本に生まれ育った不幸をも合わせ持っている」と、告発を行った。

6

精神保健の歴史（日本：第二次大戦後）

- ・ 1995年7月（平成7年）
 - * 「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」
（「精神保健福祉法」と略称）施行



“精神障害者福祉手帳”

精神障害者の自立と社会参加促進の援助
ノーマライゼーションの理念が法的に